

出展企業と主な製品・サービス一覧

会計事務所



クラウド化の浸透 さらにAIの急速な進化

会計事務所の基幹業務ソフトは、事務所内にサーバーを設置しインストールされた会計・税務ソフトを使う、これが長らく常識でした。しかし、世界もそして日本も、このようなサーバー・クライアント型から、クラウド型サービスへの移行が進んでいます。この流れの象徴的な存在が、**マネーフォワード**と**フリー**の起業と言えるでしょう。大規模な企業では、導入コストの削減や拡張性、運用負荷の軽減などのクラウドのメリットは大きく、システムは「所有から利用へ」へと変化しています。会計事務所の視点では、クラウドが得意とする金融機関とのデータ連携は大きな魅力です。

会計事務所と顧問先にとって理想的な会計システムの条件の一つは、会計データを共有し、その受け渡しが必要というものでした。**日本ビズアップ**や**フリーウェイジャパン**などは、早い時期から実現しており、**シスプラ**も含めて出展企業はそのニーズを既に満たしています。

ただ、会計事務所の実務レベルでは、必ずしもメリットばかりではありませんでした。特に慣れ親しんだ操作性が十分に実現できないなどがクラウド化の大きな障壁でした。それでも**TKC**、**日本ICS**、**ミロク情報サービス**、**エッサム**など会計・税務ベンダーは従来の操作性を意識したクラウド化を進めています。また、パソコン税務ソフトの草分け的な存在である**ハンド**もクラウド会計の提供を開始しています。

クラウドの強みはバックヤード業務の連携です。**INVOX**や**ROBOT PAYMENT**は、発行側と支払側の請求業務を極限まで自動化することを目指しています。勤怠管理システムからスタートした**ジョブカン**も会計、請求業務まで広がっています。**弥生**もクラウド版では請求や経費精算などと連携する方向へ進み、**ソリマチ**は記帳代行の視点でクラウドの有効活用を進めています。